

平成 24 年 10 月 18 日

立命館大学校友会東北支援ツアーに参加して

井沢多加男（経済学部 ‘71 年卒業）

岩手県陸前高田市に同級生が被災し生存しているので、何とか一度彼の元を訪ねたいと思ってました。昨年は来ることが出来ず、「今年こそ」と友人と話してる時に、この企画を知り参加しました。幸い彼とは宿泊ホテルで会え、積もる話をする事ができました。

昨年から二度別の東北観光ツアーで宮城、岩手、青森県は来ましたが、太平洋側は一度も通過せず、唯一仙台空港の近くで瓦礫の山を見、高速道からここまで津波が来たとの説明を受けました。

今回岩手県の釜石市から大槌町、宮古市にかけてのリアス式海岸線を、車中からでしたが、見る事ができました。住居、店舗等が流されてしまい原っぱが多かったです。以前の様子がわからないので、比較できず、逆に綺麗にかたづいたなとも思いました。山も海も美しすぎました。

我々がバスを降りた大槌町駅も線路が流出し、ホームだけが残っていました。駅前の廃墟となっている NTT ビルの横に、コンクリートに鉄柱の足元だけが残っているのが印象的でした。

この状態のエリアに自分が何が出来るのか？

無の状態からどうやって復興に繋げてもらえるのか？

マクロ的にはこれまで以上に国・政府に力を注いでもらい、ミクロ的には観光などでこのエリアを訪れ、少しでもお金を回すことしか浮かびません。そして自分の中でこの大災害を決して忘れない、風化させないという決心をしました。

線路のない大槌駅↓



NTT ビル横の残った鉄柱跡↓

